

# 移住・定住しやすいまちづくり

ふるさと舞鶴には豊かな自然や歴史・文化、そしておもてなしの心を持った温かい市民、地域のつながりなど多くのタカラモノがあります。市では、大都市では得がたいこれらの魅力を市内外の人々に知ってもらい、「このまちに住んでみたい」、子ども達が「地元に住み続けたい」と思えるまちの創造に努めています。シリーズ市政の「今」第21回は、移住・定住しやすいまちづくりの取り組みについてお知らせします。

## 安心して働き続けられるまちに

近年、個人の人生観・価値観などの多様化で、大都市から地方都市への移住や田舎暮らしなどへの関心が高まっています。このため、市では本市へ移住し、心豊かに住み続けていただくための各施策を展開しています。

### 「ジョブ・サポ」などの就業支援

就業の支援や相談では、ジョブ・サポートまいづる（舞鶴市就業支援センター）で、昨年度より国が行う職業紹介と市の就業支援の一体的運営を開始し、求人事業所と求職者とのマッチングを展開。U・J・イターンによる就職・転職を促進させるため、夏の就職フェア「ふるさとこ

ールMAZURU」を今年も開催するほか、ウェブサイトで「舞鶴働く場ガイド」で市内の求人企業を紹介。本市での就職希望者を支援し、ふるさと舞鶴での働く場の情報発信に努めています。



▲舞鶴での就業活動を全力で応援

### 就農・漁業就業支援の取り組み

将来の農業の担い手の育成を目指し、府・市・農協・地元農家が協力。新規就農希望者に農地を提供し、地元農家による農作物の栽培指導や地域社会に溶け込むための後見人によるアドバイスなどが得られる担い手養成実践農場制度、青年就農給付金等の支援制度で就農を支援しています。本年4月には、加佐地域農業農村活性化センターを開設。農地の相談や農業体験・農家民宿の開設支援などの農村ビジネスの支援を担うほか、空き家探しなど、移住・定住者へのサポートも行い、就農や農業ビジネスへの支援を図っていきます。

また、漁業の新たな担い手の確保・育成と漁村での定住を図るため、府・市・漁協などが本年4月に「海の民学舎」を設立し、新規漁業就業者などを支援しています。漁協、府、本市を含む沿海4市町が研修から就業・定住までをサポート。漁業の知識と「丹後とり貝」養殖などの技術の習得や水産物の加工、調理など漁業者としての基本を身に付けることがで



▲担い手養成実践農場修了式



▲加佐地域農業農村活性化センターを開設

きます。今後も一人前の農家・漁師を地域ぐるみで育てるため、研修制度の活用と併せ、農漁村への移住・定住を支援していきます。

### 創業・新規事業をサポート

市では、このまちで新たに起業し、地域に新たな活力を生み出す事業者をサポートしています。創業おうえん奨励金や商店街創業促進支援事業、中小企業融資制度で、創業に必要なノウハウを学ぶ場の提供や創業資金に対する支援、中小企業の運転資金・設備資金への貸し付けを実施。これらの取り組みにより、空き店舗の解消やにぎわいづくり、そして依然として厳しい経営環境にある市内中小企業の資金繰り負担を軽減し、このまちで安心して働くことができる環境を整備しています。



▲「丹後とり貝」育成技術指導を受ける海の民学舎生

## 安心して住み続けられるまちに

### このまちで働く若者達のために

本市の定住人口の維持のためには、このまちで生まれ育った若者にとつての「働く場」が必要です。そのため、本市で学ぶ若い世代がこのまちで働くために必要な支援を市内の高等教育機関と連携して進めています。市内のポリテクカレッジ京都と舞鶴YMC A国際福祉専門学校において、ものづくりや介護福祉を学ぶ就学者に対して入学金や授業料などを貸与し、卒業後市内事業所に一定期間就業した場合は返還を免除する奨学金制度を設立。次代を担う人材の育成と併せ、学生が本市で学び、地元に残り働き続けることができる環境作りに取り組んでいます。



▲授業で車イスの実技体験を行う

### まちなか空き家再生による定住促進

人口減少と商店街の活力の低下により、全国的に中心市街地の空洞化が進んでいます。このため、本年度、まちなかへの移住・定住希望者に対し、市が指定する居住誘導エリアの空き家を購入もしくは賃借する人が実施する住宅改修費用の一部を助成する制度を創設予定。このまちで安心して住み続けられるよう商店



▲空き家バンクで「田舎暮らし」をサポート

街エリア周辺の空き家などへの移住や定住の促進を図ることで、市街地の活性化と都市機能の向上に取り組めます。

### 農村・漁村エリアの空き家バンクで田舎暮らしを支援

「田舎暮らし」の舞台となる農村地域では、高齢化や後継者不足による耕作放棄地や空き家の発生が問題となつていきます。また、過疎化・高齢化が進み、自治会活動などに支障が生じている地域も存在します。これらを解消するため、市では地域の担い手などを確保し、農村地域の活性化を図るため、空き家提供の推進や移住希望者の受け入れ活動、空き家の改修費などを支援。農村・漁村地域への移住・定住を推進します。

### 若い世代が集うまちへ

子どもの声が聞こえ、さまざまな世代が見守りあう温かい地域の創造と持続可能な地域の実現を目指し、今後もこのふるさと舞鶴が次代の担い手となる若い世代が集うまちになるよう本市の魅力発信していきます。そして、「舞鶴で仕事をしてみたい」「舞鶴の良い所をもっと知りたい」というニーズに応え、本市への移住・定住促進を強化することで、このまちが活気ある「住んでみたいまち、住み続けたいまち」になるよう努めていきます。